

応募状況

回数	年度	応募 シリーズ数	大賞 数	特別 (優秀)賞	優秀賞	大賞受賞企業		特記事項
8	2015	128	2	29	87	一条工務店	アイ・ホーム	
7	2014	102	2	24	68	アエラホーム	ヤマト住建	
6	2013	57	1	18	30	松下孝建設		
5	2012	54	1	11	28	一条工務店		H/Y in energyに改称
	2011	東日本大震災のため中止						
4	2010	53	2	23	23	新昭和	松美造園建設工業	リフォーム部門 低層賃貸部門 も設ける
3	2009	43	2	9	27	日野建ホーム	フィアスホーム	
2	2008	28	2	8	12	サンワホーム	パナホーム	
1	2007	19	2	4	8	一条工務店	スウェーデンハウス	H/Y in electricとしてスタート

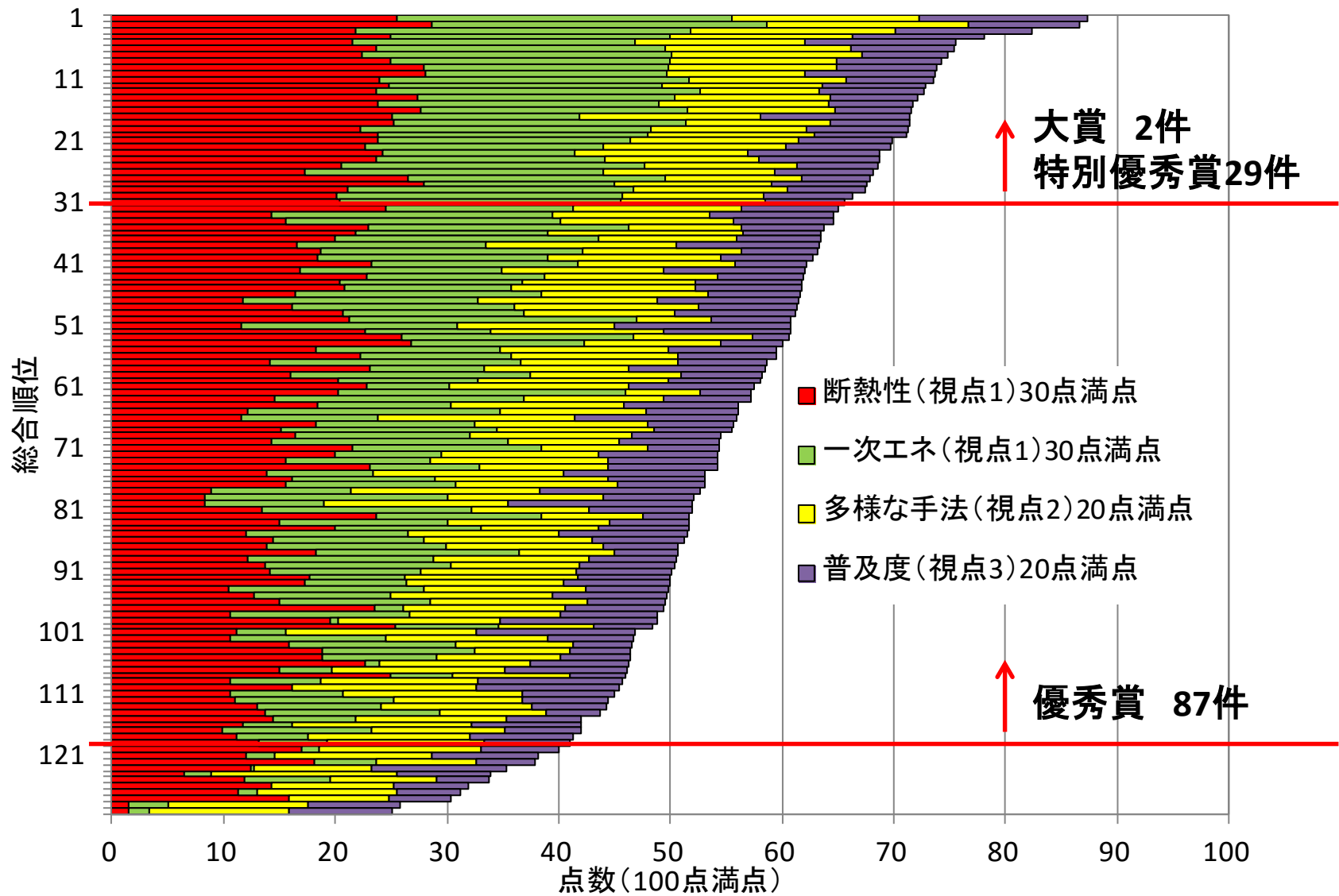
評価の方法

三つの視点からの評価と採点*

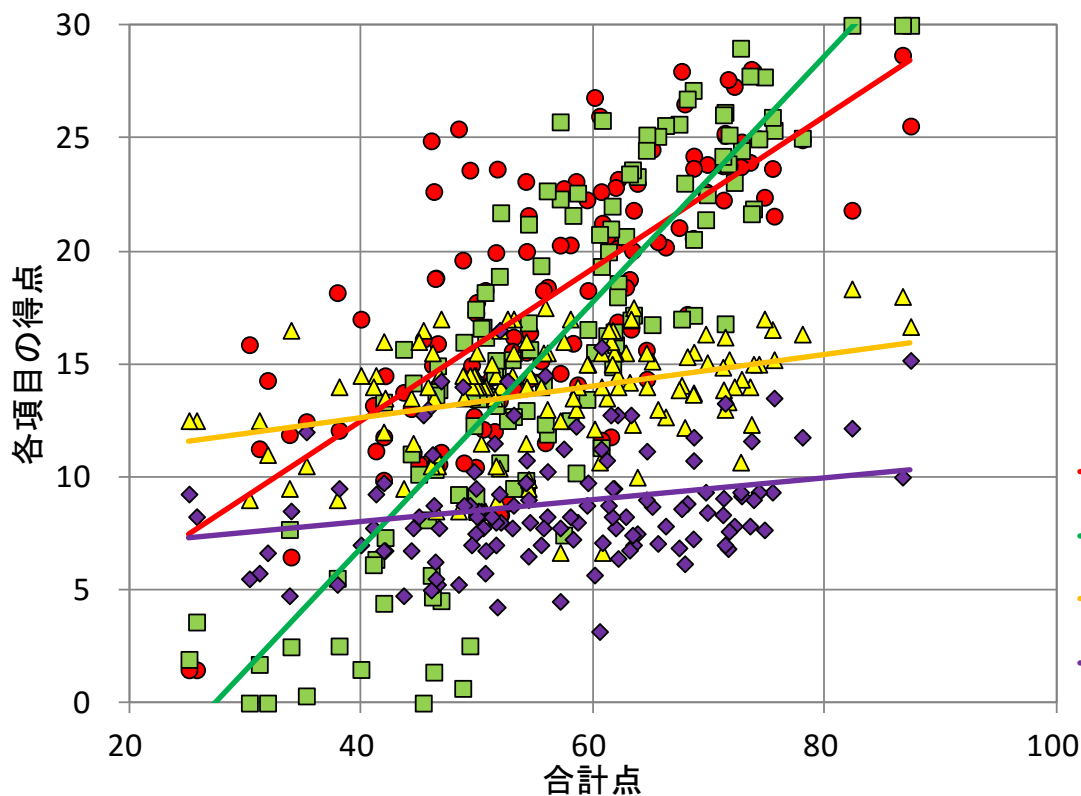
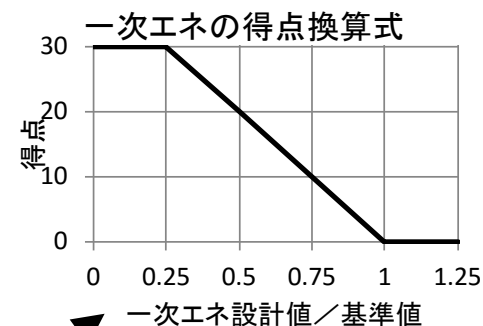
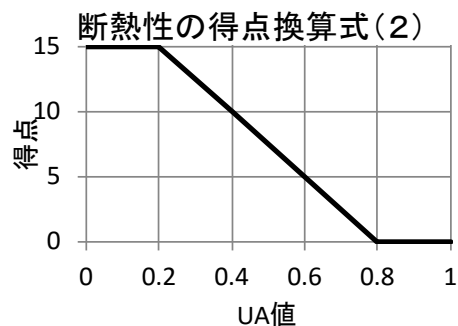
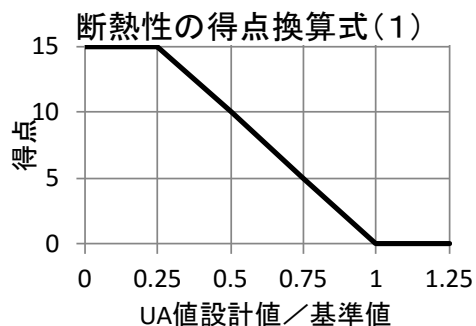
- ＜視点1＞ 外皮・設備の省エネルギー性能
（断熱性と1次エネルギー消費量）
／60点満点
 - ＜視点2＞ 多様な省エネルギー手法の導入
／20点満点
 - ＜視点3＞ 省エネルギー住宅の普及への取り組み
／20点満点
- 合計100点満点

*例年通りだが、細部で多少異なるところもある

入賞者の得点内訳



視点1(外皮断熱性と1次エネルギー消費量)が最も影響する



今回から一次エネ設計値におけるPV削減量にはPVの搭載率を乗じた。

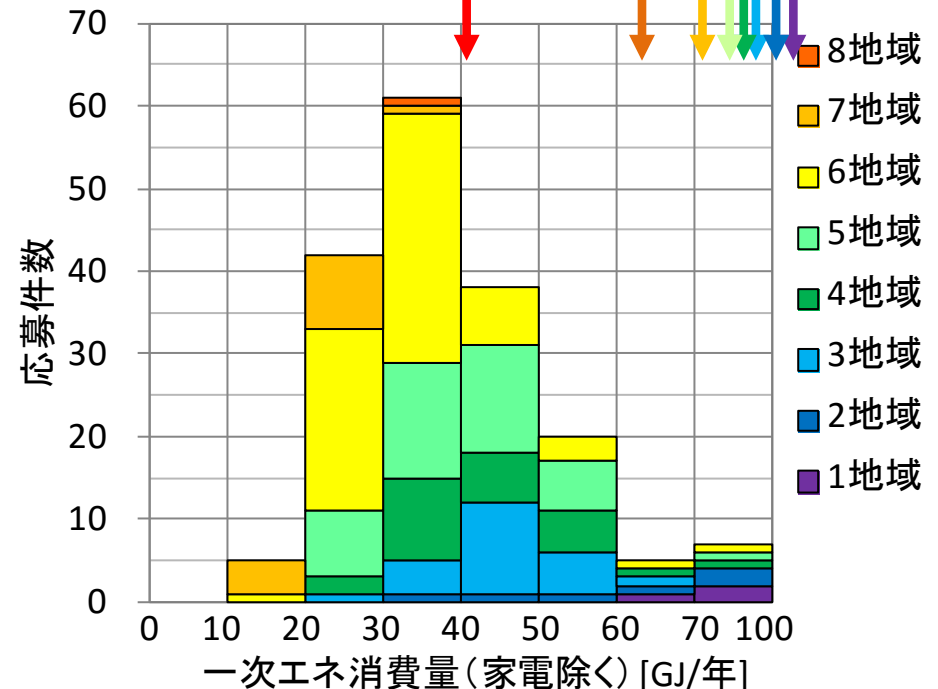
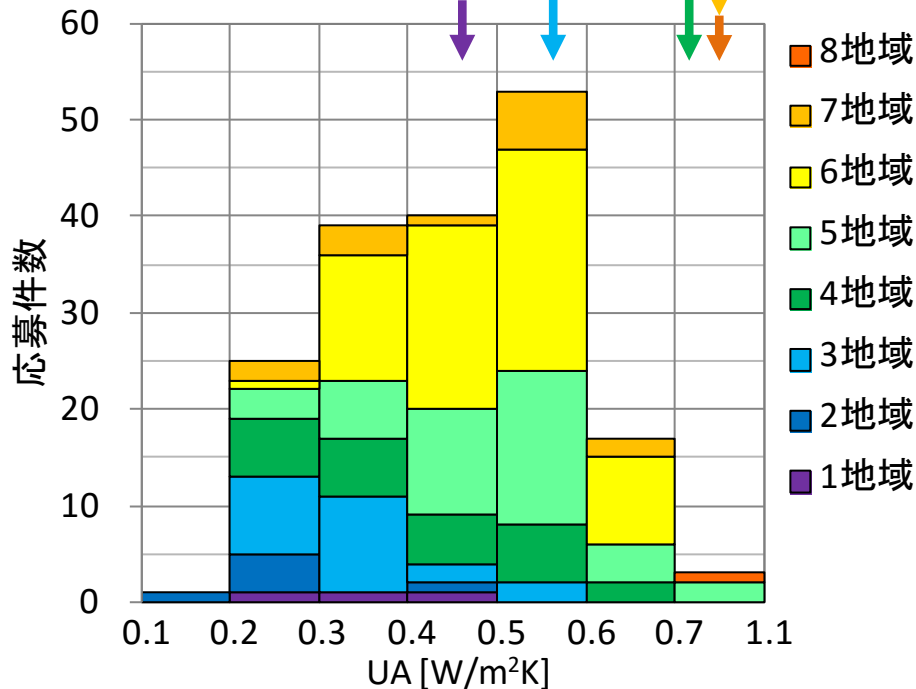
- 断熱性(視点1)30点満点
- 一次エネ(視点1)30点満点
- ▲ 多様な手法(視点2)20点満点
- ◆ 普及度(視点3)20点満点
- 線形(断熱性(視点1)30点満点)
- 線形(一次エネ(視点1)30点満点)
- 線形(多様な手法(視点2)20点満点)
- 線形(普及度(視点3)20点満点)

応募はほとんど高性能(基準値を楽々満たす)

	1地域	2地域	3地域	4地域	5地域	6地域	7地域	8地域
UA値基準値[W/m ² K]	0.46	0.46	0.56	0.75	0.87	0.87	0.87	—
一次エネ基準値 (家電除く)[GJ/年] (※設備種別により異なる)	91~129	84~120	76~114	66~117	60~108	51~101	51~76	41

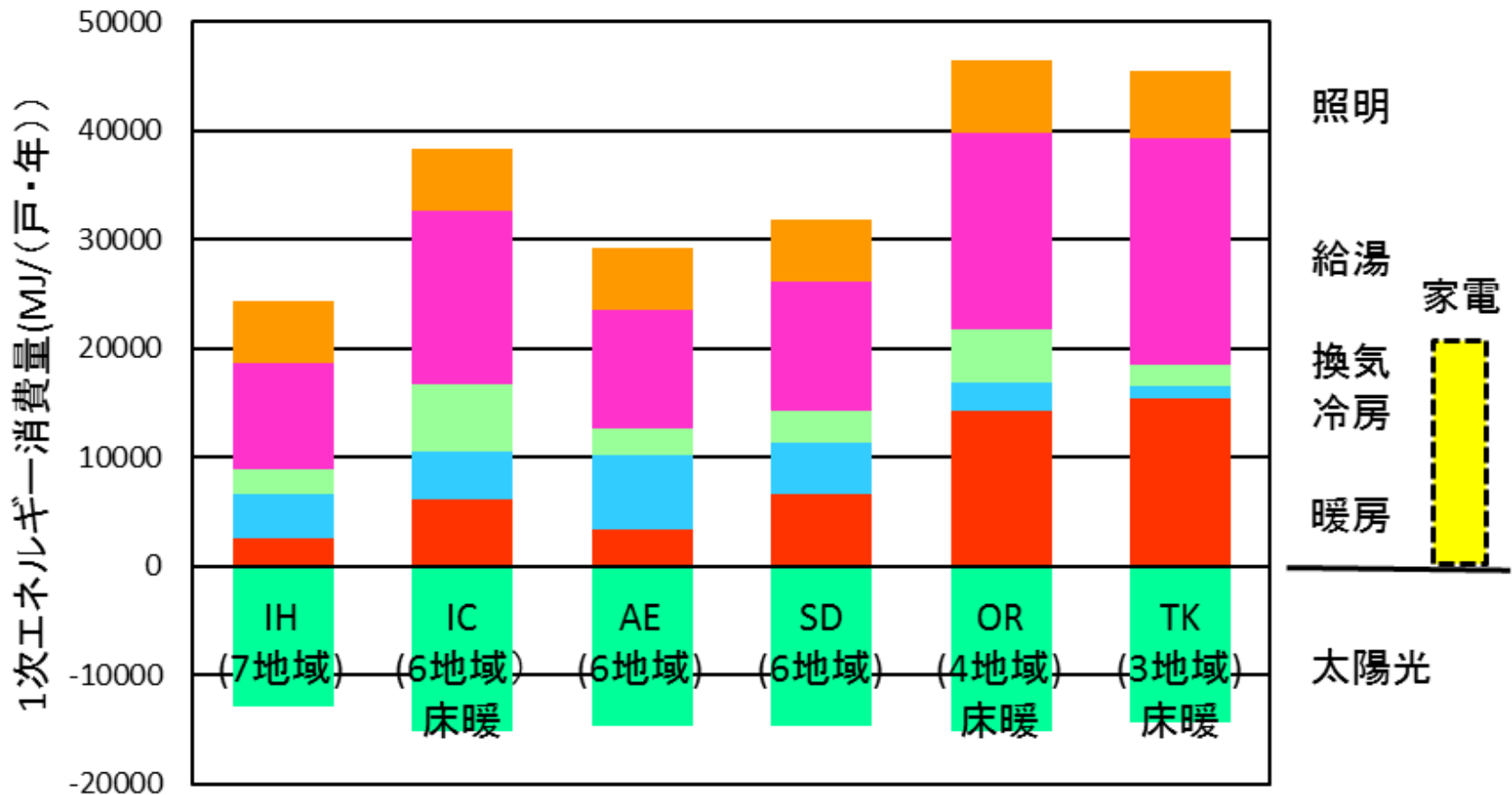
UA値基準値

一次エネ基準値(中央値)



1次エネルギー消費量の内訳(上位社)

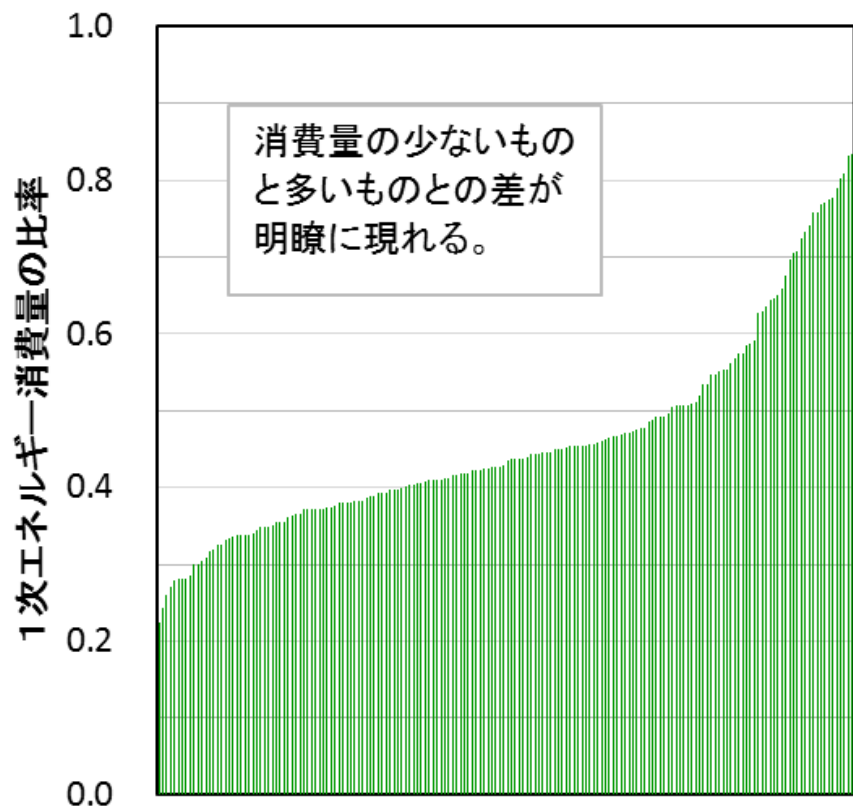
1次エネが上位社の消費量の内訳



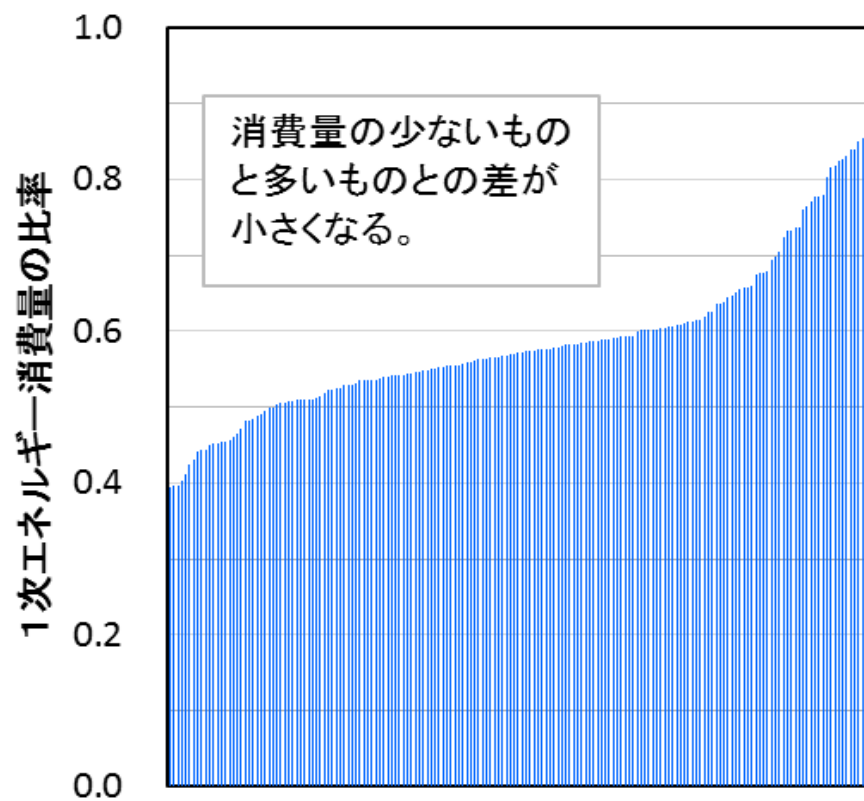
給湯と非温暖地の暖房にはまだ削減の余地がありそうだ。
例えば太陽熱の活用など。

1次エネルギー比率 (BEI = 設計値 / 基準値) の昇順グラフ

H/Yの計算ルール(家電を含まず)



省エネ基準の計算ルール(家電を含む)



H/Yではエネルギー消費量の差が明瞭に現れる計算ルールを採用している。これは省エネ基準の計算ルールとは異なるので注意が必要だ。

2015年度の社会動向とH/Y表彰

- ① COP21・パリ協定での日本のCO2削減目標値は26%(2013年度比で、2030年までに達成)。家庭部門の目標値は39%。これは、ストックも含めた目標なので、非常にレベルが高い目標だ。
- ② 建築省エネ法によって、省エネ基準(1次エネ消費量の計算)の義務化が決定。

以上を鑑みて、H/Y in Energyは何を目指すべきか？

- 1次エネ消費量計算の有用性の強調・普及拡大。
- 表彰された住宅・企業・建材の推奨。
- 新築・戸建以外(改修/集合/賃貸)の表彰は？